RIBF-ULIC-miniWS-012

仁科センター共用促進・産業連携部公募研究会 申請書（mini-WS用）

提出年月日： 2011/12/12

提出先： sympo-kyoyo[at]ribf.riken.jp

1） 開催予定日・場所

日程： 2011 年 12 月 27 日 (yyyy/mm/dd) ～ 2011 年 12 月 27 日 (yyyy/mm/dd) （開催日数 1 日間）

場所： RIBF棟2階小会議室(203号室)

※ 事前に仁科センターのセミナー委員会（ npsoc@ribf.riken.jp ）に連絡し、日程重複を避けるようにしてください。

2） タイトル

英文 （※必須）	Perspectives of shape transitions and β-decay half-lives in the neutron-rich A≈110 region near the r-process path
和文	r過程経路近傍の中性子過剰質量数110領域における変形遷移とベータ崩壊半減期

※ 採択された研究会はRIKEN Accelerator Progress Report に掲載するため英文タイトルは必須です。

3） 目的 (400字以内・書式自由)

質量数110近傍は、標準的な原子核モデルを取り入れた理論計算が太陽系における元素の存在量を過小評価するとともに、中性子過剰なZr-Nb-Mo同位体ではプロレートからオブレートへの変形遷移が示唆されている領域である。一昨年にRIBFにおいて実施したこの領域の中性子過剰核を対象とした先行実験では、標準的な理論予測値よりも2～3倍程度短い半減期が得られた。この結果は、元素合成が予想以上に速く進行することを示すものとして世界中の注目を集めた。一方、核構造の点では、Zr同位体における形状変化、^{109}Nbのオブレート変形アイソマー、^{110}Moにおけるプロレート-オブレート大振幅集団運動などの核変形に関する興味深い現象が観測された。本ワークショップでは、質量数110近傍の中性子過剰核における変形遷移と質量の変化について重点的に議論し、ベータ崩壊率およびr過程元素合成における核構造の潜在的効果について検討する。

4) 世話人

世話人全員を記入。欄が不足する場合は行をコピーしてください。

	氏名	所属機関	電話	E-mail
世話人 1	渡邉 寛	理研仁科センター	4759	hiroshi@ribf.riken.jp
世話人 2				
世話人 3				
RIBF内世話人				

※ 理研RIBF内に世話人がいない場合は事務局へご連絡ください。

5） 参加予定者・補助概算額

欄が不足する場合は行をコピーしてください。

氏名	所属機関	旅費補助 ※補助予定者についてのみ記入				
		交通費概算		宿泊費概算		
		経路	金額	単価	泊数	宿泊費計
Peter Möller	Los Alamos					¥ -
佐川弘幸	会津大学	会津若松-和光 (往復)	¥ 16,000	¥ 5,000	1	¥ 5,000
Cao Ligang	会津大学	会津若松-和光 (往復)	¥ 16,000	¥ 5,000	1	¥ 5,000
岩本昭						¥ -
小浦寛之	JAEA	東海-和光市 (往復)	¥ 4,520	¥ 5,000	1	¥ 5,000
西村俊二	理研					¥ -
渡邉寛	理研					¥ -
						¥ -
						¥ -
						¥ -
						¥ -
						¥ -
						¥ -
合計		¥				51,520

参加予定者全員の氏名・所属機関を記入し、旅費補助予定者については補助概算額を記入してください。

【注意事項】
- 外国から招へいする場合は、日本国内の旅費と宿泊費をサポートします。
- 東京都・埼玉県内に勤務する参加者は旅費補助の対象外です。
- サポートは実費です。
- 宿泊費は6,720円／泊を上限とします。

■ お茶代

ミニワークショップについてのお茶代の補助はありません。

補助申請額合計	¥	51,520

※ 上限：150,000円